令和８年度　全国学力・学習状況調査
～我孫子市の子どもたちの結果より～

教科に関する調査結果より

小学校
国語、算数いずれも全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」

中学校
国語・数学は「上回っている」英語は全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」

＊「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±３ポイントの範囲内。

学力

○小学校国語では、「話すこと・聞くこと」に係る出題において、自分の考えが伝わるように表現を工夫することについて、よくできている。一方、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについて課題がある。
○小学校算数では、正答率が全国平均と同程度か、やや上回っている問題が多い。その中で、数と計算の領域では、分数に関する問題に課題が見られた。
○中学校国語では、情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことがよくできている。一方、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。
○中学校数学では、どの領域も全国平均を上回る結果となった。無解答率はほとんどの問題で全国平均よりも低い。図形の領域では、全国平均を上回っているが、「２直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題」は、全国平均とほぼ同程度。
○中学校英語では、「必要な情報を読み取る」問題の３題で全国平均を上回った。目的に応じて知りたいことや欲しい情報などを読み取る力があることがこの調査からわかる。一方、社会的な話題についての問題の聞き取りで、全国平均を下回った。社会的な話題について話を聞き、要点を捉えて「重要な情報は何か」を判断する力に課題がある。

児童生徒に対する質問調査結果より

自尊意識・生活習慣等

○小中一貫教育の目指す「コミュニケーション力」「チャレンジ力」「豊かな心」について
　毎年、各学校で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業改善や、ICT 機器の活用、地域資源の活用や課題解決型の学習の充実に取り組んでいることが少しずつ成果が表れていると考えられる。「深い学び」につなげるために、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの一体的推進をさらに充実させることが必要となる。
○生活習慣
　基本的な生活習慣が身についている児童は、平均正答率が高い傾向となっている。「睡眠（起床時刻、就寝時刻）」についての意識が高い傾向にある。
○学習習慣
　「学習習慣」の意識が高いほど、各教科の結果も高い傾向にある。学習習慣を身に付けさせていく必要がある。学習の仕方や学習習慣の必要性について、指導していく必要がある。
○自己有用感
　前向きな回答が多いなか、一定数の児童が「どちらかと言うと当てはまらない」「当てはまらない」と回答している。学校調査でも、多くの学校の教師は積極的にほめたり、認めたりしているので、それが届いていない児童への声掛けが課題である。
○学習に対する興味・関心や授業の理解度
　多くの教師が主体的・対話的で深い学びになるように、授業を工夫している傾向があるが、生徒がそれを実感するのに、時間がかかっている様子。生徒が、自分たちの学習が、主体的・対話的で深い学びにつながっていると実感できるように引き続き指導を行っていく必要がある。ICT 活用についても、児童生徒の学力向上につながるように引き続き、指導していく必要がある。